

## 研究所年報 巻頭の言葉

和漢医薬学総合研究所は 2010 年より和漢医薬学に特化した国内唯一の附置研究所として文部科学大臣より「和漢薬の科学基盤形成拠点」に認定され、数多くの拠点事業を推進してきました。本事業では、和漢医薬学に関する公募型共同研究を積極的に進め、他の大学や研究機関の多くの関連研究者と密接な連携をして本分野の発展に貢献する研究を実施しております。この拠点事業の一環として、同じく研究拠点に認定された長崎大学熱帯医学研究所や金沢大学がん進展制御研究所とのジョイントセミナーを回を重ねて開催しております。研究分野は異なるものの共に全国共同利用・共同研究拠点である強みを生かした新たな拠点間交流により、学際的な共同研究実施体制を具現化しつつあり、今後の相互発展が期待されます。

また、2012 年 4 月には、大幅な組織改編を行いました。(1)化学応用分野を改組し、天然物化学分野として設置、(2)外国人客員部、国際共同研究部、機能情報解析分野を改組し、国際共同研究分野として設置、(3)拠点事業推進室を改組し、拠点事業推進室/栄養代謝学分野として設置、さらに、(4)民族薬物研究センター薬効解析部を病態制御部門神経機能学分野に改めました。拠点として事業をさらに推進するために、機能強化に向けた組織体制を構築・整備する必要があるとの観点から、組織の見直しと再編を図りました。

また、改修工事を終えた民族薬物資料館には、専任の館長を配置しました。一般公開事業を積極的に行い、全国に誇る富山大学を代表する施設として、見学希望者への対応が頻繁に行われております。今年 11 月には ニュースレター創刊号を刊行し、その活動を伝えております。

このように、共同利用・共同研究拠点の組織・機能の充実を図りつつ、所員が一丸となり和漢医薬学研究の進展を図る所存ですので、今後共、皆様方からの一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 25 年 1 月

和漢医薬学総合研究所 所長 済木育夫